様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　４ 月　７ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｈ０１１７８

研究課題名（和文）哲学、教育哲学、教育実践を架橋した共同研究による新たな徳認識論の理論の構築

研究課題名（英文）Virtue Epistemology in Japan

研究代表者
立花　幸司（Tachibana, Koji）

千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授

研究者番号：３０７０７３３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,000,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトの研究の目的は、哲学、教育哲学、教育実践者の緊密な共同研究による、理論的に妥当で教育実践上も有効な徳認識論の理論を構築することである。具体的には、日本という教育文化的風土における善き認識者の「徳」を明らかにし、それに基づいた徳認識論の新たな理論を提案することである。目的達成のため、調査・議論・国内外の学会での研究発表やワークショップ等を実施し、そこで得られた指摘を元に内容をよりよいものとし、その成果を、専門家向けには国内雑誌や海外雑誌での学術論文として発表し、より一般向けには、邦語書籍『徳の教育と哲学：理論から実践、そして応用まで』（立花幸司編著、2023年）として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本プロジェクトで得られた意義として、（１）徳について日本の観点から考察することで認識論的に新たな視座を与えた点、また、（２）哲学者・教育哲学者・教育実践者が密な共同研究を行うことで、専門家向けにも一般向けにも豊かな成果を挙げられることを実際に示した点に、学術的な意義がある。他方で、（３）徳という複雑な概念を用いながらも、フィールドとアプローチを明確にすることで現実社会（本プロジェクトの場合は学校教育）を新たな角度から分析することができることを示し、現実を再考しより良くするための一助となったという点に、社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to construct a theory of virtue epistemology that is theoretically valid and effective in educational practice through close collaboration between philosophers, philosophers of education, and educational practitioners. To achieve the project's objective, the researchers surveyed and discussed related studies and presented their ideas at national and international conferences and workshops. Based on the feedback, they revised their theories and published them as academic articles in national and international journals. They also published a Japanese book, "Philosophy and Education of Virtue: From Theory to Practice, and Applications" (Edited by Koji Tachibana, 2023), for a more general audience.

研究分野：哲学

キーワード：徳　徳倫理　学校教育　徳認識論　道徳　教育　教育哲学　アリストテレス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

認識主体の「徳」の観点から認識・知識を研究する徳認識論は、認識論の分野の新たなアプローチとして注目を集めているが、哲学と教育哲学の交流の不在に起因した研究の遅延が国内外で指摘されていた。

## ２．研究の目的

そこで本プロジェクトでは、哲学、教育哲学、教育実践者の緊密な共同研究による、理論的に妥当で教育実践上も有効な徳認識論の理論を構築する。具体的には、日本という教育文化的風土における善き認識者の「徳」を明らかにし、それに基づいた徳認識論の新たな理論を提案する。

## ３．研究の方法

【全般的な方法】
以下の三つの方法を合わせて研究を進めた

1. 【哲学分野】　哲学とりわけ徳認識論と徳倫理学に関わる文献調査とそれに関する議論にもとづく理論形成。

2. 【教育哲学分野】　教育哲学における徳の扱い方に関わる文献調査とそれに関する議論にもとづく理論形成。

3. 【教育実践】　日本の学校教育の現場において「徳」がどのように関わるのか関する検討。

4. 【相互の関連性調査】　上記１～３のあいだに関連性があるところを捜し出し、またその関連性がどのような意義をもつのかを検討。

【初年度】
上記の観点からの既存の研究のサーヴェイと理論の形成を行った。

【二年目以降】
以下の二つのアプローチを同時に進めた。

アプローチ１：サーヴェイに基づいた議論を国内外の学会で発表しながら、専門雑誌に投稿し、成果として掲載する。

アプローチ２：理論を用いて質問紙調査を実施することで、徳についての意識調査を行い、現代日本における徳の意識について成果をまとめる。

【最終年度】
引き続き国際学会等へ参加・発表しながら、これまでの研究成果に基づいた書籍を刊行する。

## ４．研究成果

本プロジェクトの研究成果は、学術的な成果と社会的な成果の二つにわけることができる。

【学術的な成果】
日本という教育文化的風土における善き認識者の「徳」にかんして、専門的な知見を得た。これらは、国内外の学術専門雑誌に掲載されるかたちで、専門家に向けて数多く発表された。また、意思調査の成果として以下の論文が刊行された。（＊ただし、この論文も含め、最終年度の成果一覧は本ファイルの以下の「５．主な発表論文等」には反映されていないため、科研費のウェブサイト上で確認されたし。）

Tachibana, Koji and Eisuke Nakazawa. (2024). The consciousness of virtue: uncovering the gaps between educational specialists and the general public in their understanding of virtue in Japan. *Frontiers in Psychology*, 14:1171247. doi: 10.3389/fpsyg.2023.1171247

**【社会的な成果】**

**学術的な成果として得られた日本の「徳」について、社会（本プロジェクトの場合は学校教育）を新たな角度から分析することで、現実を再考しより良くするための一助となった。これは、書籍『徳の教育と哲学』（立花幸司編著、2023 年）として、寄り一般向けに発表された。**

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計31件（うち査読付論文　10件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　5件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>立花幸司 | ４．巻<br>21 |
| ２．論文標題<br>国際平和のための法と徳：カントとアリストテレスの視点 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>インターカルチュラル　日本国際文化学会年報 | ６．最初と最後の頁<br>64-78 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>立花幸司 | ４．巻<br>- |
| ２．論文標題<br>宇宙進出時代における宇宙の視座の多様化 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>『地球／月圏での人間社秋の構築に向けた人文・社会科学研究』、柳川孝二・岡田浩樹編、学術研究出版 | ６．最初と最後の頁<br>212-220 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>立花幸司 | ４．巻<br>58 |
| ２．論文標題<br>私が英語で研究活動する三つの理由 | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>『科学哲学：ニューズレター』 | ６．最初と最後の頁<br>5-8 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>山田圭一 | ４．巻<br>49 |
| ２．論文標題<br>悲しみを見るとはどのようなことか ―ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討 | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>哲学論叢 | ６．最初と最後の頁<br>1-11 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>山田圭一 | 4．巻<br>1185 |
| 2．論文標題<br>意味は体験されるのか―『哲学探究』第一部と第二部の違いを考える | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>思想 | 6．最初と最後の頁<br>104-119 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>山田圭一 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>レッスンのなかで見るということ―哲学とエスノメソドロジーの交差点 | 5．発行年<br>2023年 |
| 3．雑誌名<br>小宮友根・黒嶋智美編著、『実践の論理を描く　相互行為のなかの知識・身体・こころ』、勁草書房 | 6．最初と最後の頁<br>236-251 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>佐藤邦政 | 4．巻<br>12 |
| 2．論文標題<br>学習者の「信仰の火をつける」ことについての一解釈：教えることと知的価値の変容 | 5．発行年<br>2023年 |
| 3．雑誌名<br>自律した学習者を育てる英語教育の探求 | 6．最初と最後の頁<br>21-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Koichiro Misawa | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>Rationality environmentalised (with and beyond Michael Bonnett) | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>Environmental Education Research | 6．最初と最後の頁<br>1～12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1080/13504622.2022.2067324 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Koichiro Misawa | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>Practical rationality in education: beyond the Hirst?Carr debate | 5．発行年<br>2023年 |
| 3．雑誌名<br>Journal of Philosophy of Education | 6．最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1093/jopedu/qhac002 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>三澤 紘一郎・渡邊 福太郎 | 4．巻<br>155 |
| 2．論文標題<br>P・H・ハーストの教育哲学：合理主義と実践的転回 | 5．発行年<br>2023年 |
| 3．雑誌名<br>哲学（三田哲学界編） | 6．最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>土屋陽介 | 4．巻<br>72 |
| 2．論文標題<br>哲学対話が「哲学」と「対話」の実践であるために：ガート・ビースタの哲学対話教育批判の検討を通して | 5．発行年<br>2023年 |
| 3．雑誌名<br>倫理学年報 | 6．最初と最後の頁<br>7-19 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>立花幸司 | 4．巻<br>6(2) |
| 2．論文標題<br>現代徳倫理学について：理論の概要、日本における始まり、教育という論点 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>フィルカル | 6．最初と最後の頁<br>82-110 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Szocik Konrad、Shelhamer Mark、Braddock Martin、Cucinotta Francis A.、Impey Chris、Worden Pete、Peters Ted、Cirkovic Milan M.、Smith Kelly C.、Tachibana Koji、Reiss Michael J.、Norman Ziba、Gouw Arvin M.、Munevar Gonzalo | 4．巻<br>133 |
| 2．論文標題<br>Future space missions and human enhancement: Medical and ethical challenges | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>Futures | 6．最初と最後の頁<br>102819～102819 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1016/j.futures.2021.102819 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>立花幸司 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>エンハンスメントと人生における幸福のかたち | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>森岡正博，石井哲也，竹村瑞穂（編著）『スポーツと遺伝子ドーピングを問う：技術の現在から倫理的問題まで』　晃洋書房 | 6．最初と最後の頁<br>171-191 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>山田圭一 | 4．巻<br>49(16) |
| 2．論文標題<br>見ることの日常性と非日常性 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>現代思想　総特集＝ウィトゲンシュタイン（2022年1月臨時増刊号） | 6．最初と最後の頁<br>186-198 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>佐藤邦政 | 4．巻<br>6(2) |
| 2．論文標題<br>徳の教育論の展望：その可能性と危険性を見定める | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>フィルカル | 6．最初と最後の頁<br>78-80 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>佐藤邦政 | 4．巻<br>6(2) |
| 2．論文標題<br>人間形成と人間構築をともに視野に入れる知的徳の保育・教育論：解放的徳と認識的不正義を両輪とする展望 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>フィルカル | 6．最初と最後の頁<br>112-133 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Misawa Koichiro | 4．巻<br>16 |
| 2．論文標題<br>The pervasiveness of the rational-conceptual: an educational-philosophical perspective on nature, world and ‘sustainable development’ | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>Ethics and Education | 6．最初と最後の頁<br>289～306 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1080/17449642.2021.1908647 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>三澤紘一郎 | 4．巻<br>125 |
| 2．論文標題<br>教育と徳理論―導入 | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>教育哲学研究 | 6．最初と最後の頁<br>100-102 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>土屋陽介 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>子どもの哲学（P4C） | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>日本道徳教育学会全集編集委員会・柳沼良太・行安茂・西野真由美・林泰成（編著）『新道徳教育全集 第2巻 諸外国の道徳教育の動向と展望』、学文社 | 6．最初と最後の頁<br>203-210 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>土屋陽介 | 4．巻<br>6(3) |
| 2．論文標題<br>「考える人を育てる教育」はどのようなものであってはならないか：知的徳の教育の観点から | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>フィルカル | 6．最初と最後の頁<br>102-118 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>土屋陽介 | 4．巻<br>71 |
| 2．論文標題<br>知的な安全性について：哲学対話を道徳科の授業の中に取り入れることの可能性と危険性 | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>倫理学年報 | 6．最初と最後の頁<br>96-100 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>村瀬智之 | 4．巻<br>72 |
| 2．論文標題<br>方法的知識と傾向性 ― 方法的知識はいかなる知識か？ | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>哲学 | 6．最初と最後の頁<br>164-175 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>村瀬智之 | 4．巻<br>3 |
| 2．論文標題<br>「哲学に関わる対話的手法」を用いた公民科授業づくりの試み ―「媒介教材を用いた授業」を事例として― | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>思考と対話 | 6．最初と最後の頁<br>12-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>村瀬智之 | 4．巻<br>69(5) |
| 2．論文標題<br>学生の主体的活動を軸とした技術者倫理教育の試み | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>工学教育 | 6．最初と最後の頁<br>49-54 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>立花幸司 | 4．巻<br>108 |
| 2．論文標題<br>哲学教育の端緒と終局：小島雅春先生のご退職に寄せて | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>フィロソフィア | 6．最初と最後の頁<br>144-153 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Misawa Koichiro | 4．巻<br>16 |
| 2．論文標題<br>The pervasiveness of the rational-conceptual: an educational-philosophical perspective on nature, world and ‘sustainable development’ | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>Ethics and Education | 6．最初と最後の頁<br>289～306 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1080/17449642.2021.1908647 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>土屋陽介 | 4．巻<br>62 |
| 2．論文標題<br>哲学対話ってなに？：哲学対話とカウンセリングマインド | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>東京私立学校保健研究会会誌 | 6．最初と最後の頁<br>13-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>村瀬 智之 | 4．巻<br>2021 |
| 2．論文標題<br>方法的知識と傾向性 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>哲学 | 6．最初と最後の頁<br>164～175 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.11439/philosophy.2021.164 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Tachibana Koji | 4．巻<br>0 |
| 2．論文標題<br>Virtue Ethics and the Value of Saving Humanity | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>Human Enhancements for Space Missions: Lunar, Martian, and Future Missions to the Outer Planets (Edited by Konrad Szocik, Springer) | 6．最初と最後の頁<br>169～181 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1007/978-3-030-42036-9_12 | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>三澤 紘一郎 | 4．巻<br>121 |
| 2．論文標題<br>リベラルな自然主義の展開と人間の自然性―自然・規範・教育の再定位― | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>教育哲学研究 | 6．最初と最後の頁<br>93-111 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計27件（うち招待講演　3件／うち国際学会　10件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Koji Tachibana |
| 2．発表標題<br>A Unique Role of Space Education for Cultivating Virtues and Morals |
| 3．学会等名<br>Moral Development and Moral Education in Global Transition: Celebrating 50 Years of the Journal of Moral Education（国際学会） |
| 4．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Koji Tachibana |
| ２．発表標題<br>Virtue Education and Japanese Culture: Towards a fruitful collaboration between philosophy, psychology, and pedagogy |
| ３．学会等名<br>Integrating Research on Character and Virtues: 10 Years of Impact（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Koji Tachibana(企画) |
| ２．発表標題<br>Workshop: Virtue and Society through the Lens of Japanese School Education |
| ３．学会等名<br>Moral Development and Moral Education in Global Transition: Celebrating 50 Years of the Journal of Moral Education（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>立花幸司（企画） |
| ２．発表標題<br>公募ワークショップ「現代哲学として「徳」を研究する」 |
| ３．学会等名<br>第81回日本哲学会大会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>立花幸司 |
| ２．発表標題<br>日本語における「徳」の意味合いとギリシア哲学の役割について |
| ３．学会等名<br>第81回日本哲学会大会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>山田圭一 |
| ２．発表標題<br>「公共」的な見方とは何か ―学習指導要領を哲学的に問い直す― |
| ３．学会等名<br>第七十三回日本倫理学会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kunimasa Sato |
| ２．発表標題<br>Ameliorative Epistemic Responsibility |
| ３．学会等名<br>Tokyo Forum for Analytic Philosophy（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kunimasa Sato |
| ２．発表標題<br>A Non-Ideal Epistemic Aim of Education: Epistemic Injustice, Vulnerability, and Care |
| ３．学会等名<br>North American Association for Philosophy & Education（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kunimasa Sato |
| ２．発表標題<br>Critical Thinking and Ignorance |
| ３．学会等名<br>North American Association for Philosophy & Education（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>佐藤邦政 |
| ２．発表標題<br>証言的不正義、認識的不運、変容的責任 |
| ３．学会等名<br>第1回南山大学社会倫理研究所談話会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>佐藤邦政 |
| ２．発表標題<br>認識的不正義の研究状況 |
| ３．学会等名<br>第73回日本倫理学会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>土屋陽介 |
| ２．発表標題<br>教師は専門職か？ |
| ３．学会等名<br>応用哲学会第14回年次研究大会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Yohsuke Tsuchiya |
| ２．発表標題<br>Philosopher as "the dissensual other": An attempt to bring philosophical radicalism back to P4wC |
| ３．学会等名<br>The International Council of Philosophical Inquiry with Children（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>土屋陽介 |
| ２．発表標題<br>哲学対話が「哲学」と「対話」の実践であるために：ガート・ビースタの哲学対話教育批判の検討を通して |
| ３．学会等名<br>日本倫理学会第73回大会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>村瀬智之 |
| ２．発表標題<br>教師の資質能力の批判的分析 |
| ３．学会等名<br>応用哲学会第14回年次研究大会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoyuki Murase |
| ２．発表標題<br>What makes us P4C teachers? |
| ３．学会等名<br>The International Council of Philosophical Inquiry with Children（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>立花幸司 |
| ２．発表標題<br>日本における徳倫理学の受容からみる教育という論点の位置づけ |
| ３．学会等名<br>教育哲学会第64回大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>立花幸司 |
| ２．発表標題<br>日本の宇宙安全保障に倫理的な観点が必要な理由 |
| ３．学会等名<br>第65回宇宙科学技術連合講演会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Koji Tachibana |
| ２．発表標題<br>Virtues and Morals in the Space Age |
| ３．学会等名<br>SSoCIA 2022: The 4th Biannual Meeting of The Society for Social and Conceptual Issues in Astrobiology（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>山田圭一 |
| ２．発表標題<br>哲学教育ワークショップ「小中学校の特別な教科「道徳」の教科書と使い方を考える」（企画・趣意文） |
| ３．学会等名<br>第80回日本哲学会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>佐藤邦政 |
| ２．発表標題<br>証言的正義の徳から解放的徳としての変容へ |
| ３．学会等名<br>第64回教育哲学会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>佐藤邦政 |
| ２．発表標題<br>非理想的な教育の認識的目的論：道徳と認識のハイブリッドな目的論に向けて |
| ３．学会等名<br>第64回教育哲学会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>三澤 紘一郎 |
| ２．発表標題<br>ラウンドテーブル「教育と徳倫理」（企画・司会） |
| ３．学会等名<br>教育哲学会第64回大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>土屋陽介 |
| ２．発表標題<br>「考える人を育てる教育」はどのようなものであってはならないか：知的徳の教育の観点から |
| ３．学会等名<br>日本哲学プラクティス学会第3回大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>土屋陽介 |
| ２．発表標題<br>哲学対話はなぜ道徳教育の役に立つのか？ |
| ３．学会等名<br>日本倫理学会、第72回大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>村瀬智之 |
| ２．発表標題<br>哲学対話では何が起こっているのか？―「配慮・尊重」と「問い」の関係を考える― |
| ３．学会等名<br>日本哲学プラクティス学会第3回大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kunimasa Sato |
| ２．発表標題<br>A Non-Ideal Epistemic Aim of Education |
| ３．学会等名<br>2021 ALPE Winter（国際学会） |
| ４．発表年<br>2021年 |

〔図書〕　計10件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>ミランダ・フリッカー著、佐藤邦政監訳、飯塚理恵訳 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>勁草書房 | ５．総ページ数<br>344 |
| ３．書名<br>認識的不正義 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>新しい国語編集委員会（編） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>東京書籍 | ５．総ページ数<br>336 |
| ３．書名<br>令和3年度中学校国語科用文部科学省検定済教科書『新しい国語　１』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>新しい国語編集委員会（編） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>東京書籍 | ５．総ページ数<br>336 |
| ３．書名<br>令和3年度中学校国語科用文部科学省検定済教科書『新しい国語 2』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>新しい国語編集委員会（編） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>東京書籍 | ５．総ページ数<br>334 |
| ３．書名<br>令和3年度中学校国語科用文部科学省検定済教科書『新しい国語 3』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>新しい国語編集委員会（編） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>東京書籍 | ５．総ページ数<br>359 |
| ３．書名<br>『新しい国語　１教師用指導書 研究編下』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>新しい国語編集委員会（編） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>東京書籍 | ５．総ページ数<br>429 |
| ３．書名<br>『新しい国語　2教師用指導書 研究編上』 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>新しい国語編集委員会（編） | 4．発行年<br>2021年 |
| 2．出版社<br>東京書籍 | 5．総ページ数<br>347 |
| 3．書名<br>『新しい国語　2教師用指導書 研究編下』 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>新しい国語編集委員会（編） | 4．発行年<br>2021年 |
| 2．出版社<br>東京書籍 | 5．総ページ数<br>439 |
| 3．書名<br>『新しい国語　3教師用指導書 研究編上』 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>鳥飼　玖美子、鈴木　希明、綾部　保志、榎本　剛士 | 4．発行年<br>2021年 |
| 2．出版社<br>ミネルヴァ書房 | 5．総ページ数<br>210 |
| 3．書名<br>よくわかる英語教育学（（分担執筆）佐藤邦政「主体性」（共著、3、4節担当）） | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>河野　哲也、得居　千照、永井　玲衣 | 4．発行年<br>2020年 |
| 2．出版社<br>ひつじ書房 | 5．総ページ数<br>376 |
| 3．書名<br>ゼロからはじめる哲学対話（（分担執筆）村瀬智之、「第4章-5　知識と科学」） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 村瀬　智之<br>(Murase Tomoyuki)<br>(00706468) | 東京工業高等専門学校・一般教育科・准教授<br>(52601) | |
| 研究分担者 | 三澤　紘一郎<br>(Misawa Koichiro)<br>(20636170) | 群馬大学・共同教育学部・准教授<br>(12301) | |
| 研究分担者 | 山田　圭一<br>(Yamada Keiichi)<br>(30535828) | 千葉大学・大学院人文科学研究院・教授<br>(12501) | |
| 研究分担者 | 土屋　陽介<br>(Tsuchiya Yosuke)<br>(40806494) | 開智国際大学・教育学部・准教授<br>(32524) | |
| 研究分担者 | 佐藤　邦政<br>(Sato Kunimasa)<br>(50781100) | 茨城大学・教育学部・助教<br>(12101) | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|